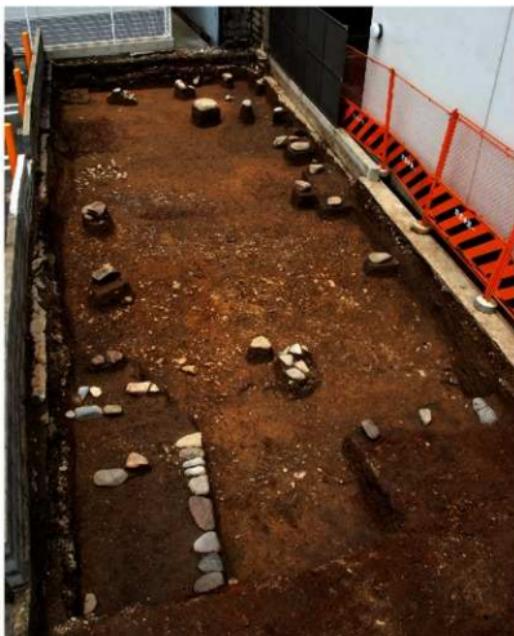


# 姫路城城下町跡

—姫路城跡第356次発掘調査報告書—



調査区西半上層遺構全景（東から）

2017

姫路市教育委員会

## 1. 調査に至る経緯

姫路市東駅前町81番において店舗の建設工事が計画された。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である姫路城下町跡（県遺跡番号020169、図1）に該当する。事業の実施にあたり事業者より文化財保護法第93条の届出がなされ、姫路市教育委員会生涯学習部文化財課において遺跡の取り扱いについての協議が行われた。そこで、まずは事業地内の遺跡の状況を把握するために確認調査（姫路城跡第355次調査、遺跡調査番号20160102）を行った。調査の結果、近世城下町に関する礎石や整地土層、そして城下町以前の遺構と思われる落ち込みを確認した。

調査地に遺跡が存在することが明らかになったために、兵庫県教育委員会からの発掘調査の通知に基づき、遺跡が影響を受ける建物基礎部分を本発掘調査の対象とした。調査面積は81m<sup>2</sup>である。調査に際しては、姫路市と事業者で委託契約を締結し、姫路市埋蔵文化財センターが現地の調査（第356次調査）や整理作業等を実施した。現地調査は平成28年6月21日に着手し、7月11日に完了した。調査終了後は出土品等の整理作業を行い、本書の刊行をもって事業を完了した。

## 2. 調査の位置と周辺の歴史的環境

調査地は姫路城外曲輪の一画にある東駅前町に位置する（図1）。『姫路侍屋敷図』（寛延4年（1751）～宝暦4年（1754））等によると、下級武家長屋に当たる。

## 3. 調査の成果（姫路城跡356次調査）

調査地の現況は既設建物を除却した後の更地で、標高は約12mである。基本的な土層の堆積状況として、現地表下約20～30cm、盛土や戦災焼土層の直下で、建物礎石を検出した（図3）。礎石は約30基を数える。戦災焼土がその脇に入り込んでいるものも見受けられたが、配置を重視し、極力残置するように心掛けた。その結果、概ね1m間隔の東西方向の礎石列を4列確認することができた（表紙写真）。図3のように北から礎石列1・2・3・4と呼称する。最北に位置する礎石列1は延長約14.5mと最も長い。調査区中央付近で石材が確認できなかった部分はあるが、柱筋が通っているために1列と認識している。また、礎石列3は石組み構の側石の直上にそれよりもやや大型の石材を積んでいる。柱筋は通って入るもの、建て替えに伴い一段階後に据えられた可能性も残る。また、礎石列2・4間に先述の石組み構や石列があること、この石列以南では土間を検出した（写真4）こと等から、この石列や石組み構を挟んだ南北、つまり礎石列1～3と4では別棟の建物であったと考えられる。また、中央付近では下層の遺構がほとんどみられない一方、調査区西端から5mの範囲では下層に土坑が多いことから、当初の居住スペースは調査区東端から約13mの範囲であったと想定される。

城下町以前の遺構としては、SD1が挙げられる（写真3）。城下町下層の遺構の影響を受けていない範囲でわずかに残存していた。その残存部では幅約1.3m、深さ約30cmを測る。緩やかに蛇行しながら北から南へ走行する。埋土からは概ね7世紀後半の須恵器の壺、杯、皿（図2、写真1）をはじめ須恵器や土師器の小片が出土した。

## 4.まとめ

今回は、多くの礎石をはじめ土間や石組み構など、下級武家の居宅に関連すると思われる遺構を調査することができた。また、土層観察では少なくとも3面以上の近世の生活面が残るなど、これまであまり調査例のない外曲輪における武家屋敷跡の貴重な資料を得ることができた。また、近世以前の遺構として7世紀後半の溝を確認した。近年、姫路城城下町跡においても古代の遺構の調査例が増加しつつあり、本例もわずかではあるが、その一つに加えることができよう。

【引用・参考文献】姫路市埋蔵文化財委員会編『姫路市史』第十四章 別編姫路城 姫路市

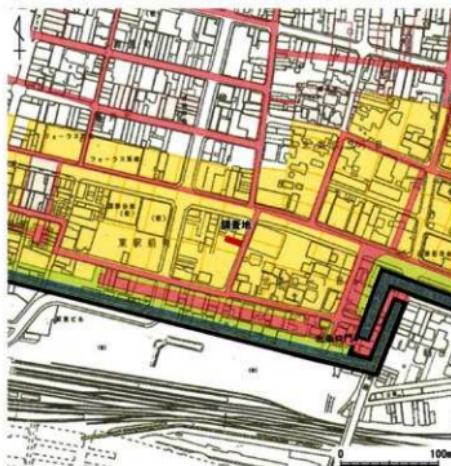


図1 調査位置図 (S=1:5,000)



図2 SD1出土物 (S=1:4)



写真1 SD1出土物

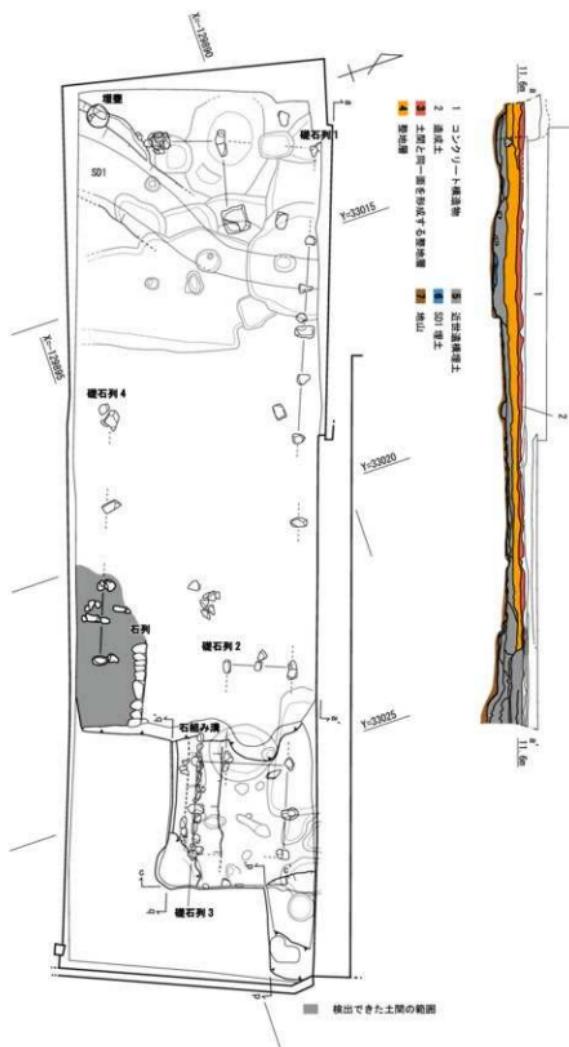


図3 調査区平・断面図 (S=1:100)



写真6 調査区東半上層全景（南西から）



写真7 調査区西半下層全景（東から）

### 報告書抄録

ふりがな	ひめじじょうじょうかまちあとーひめじじょうあとだい356じはっくつちょうさほうこくしょー								
書名	姫路城下町跡—姫路城跡第356次発掘調査報告書—								
シリーズ名	姫路市埋蔵文化財センター調査報告								
シリーズ番号	第50集								
編著者名	福井 優								
編集機関	姫路市埋蔵文化財センター								
所在地	〒671-0246 兵庫県姫路市四郷町坂元 414番地1			TEL (079) 252-3950					
発行年月日	平成29年（2017年）3月31日								
所収遺跡名	所収遺跡名	所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
姫路城下町跡	姫路城下町跡	兵庫県姫路市東駅前町1番	市町村 28201	遺跡番号 020169	34° 49' 43"	134° 41' 40"	2016.6.21 ～ 2016.7.11	81m <sup>2</sup>	店舗建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項				
姫路城下町跡	集落跡	江戸時代 奈良時代	柱穴・土坑・溝 ・礎石・石列	土師器・須恵器 ・陶磁器	下級武士の居宅に伴うと思われる礎石や石列等を確認した。				

#### 例言

- 本報告は、姫路市東駅前町に所在する姫路城下町跡（既述報告書 020169）第356次調査の発掘調査報告書である。
- 発掘調査は、姫路市東駅前町1番における建設工事に伴い、事業者である植村暮ごと委託契約を締結し、姫路市教育委員会が実施した。復地調査・整備作業・報告書刊行は、姫路市埋蔵文化財センターが行なった。
- 発掘調査に従事した者は、本報告書の著者による。
- 発掘調査は、平成28年6月21日から同年7月11日において実施した。調査面積は81m<sup>2</sup>である。
- 本報告にかかる調査の実施、出土遺物等は、すべて姫路市埋蔵文化財センターで保管している。

#### 凡例

- 発掘調査を行った測量は、世界測地系（国土地理院 2000）に準拠する平面図直角座標系第1系を基準とした。測量は1m半径で表示している。
- 本報告で用いる標高は、東京湾平均海面（T.P.）を基準とし、使用する方は世界測地系の標高値である。
- 本著に掲載した地形図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図（姫路北図）および姫路市基本地形図を使用した。
- 上層の色調については、小山正忠・竹原秀雄編 2003『新版 標準上色帳 25版』日本色研事業株式会社に準拠した。

#### 姫路市埋蔵文化財センター調査報告 第50集

#### 姫路城下町跡—姫路城跡第356次発掘調査報告書—

編集	姫路市埋蔵文化財センター
発行	〒671-0246 兵庫県姫路市四郷町坂元 414番地1
発行日	姫路市教育委員会
発行日	〒670-8501 兵庫県姫路市安田四丁目1番地
印刷・製本	平成29年（2017年）3月31日
印刷・製本	松尾印刷株式会社
印刷・製本	〒671-0222 兵庫県姫路市別所町小林494